

項目	環境保全に配慮した資源循環利用の促進	NO	1-4
事業名	やまがたの木のある暮らし・街づくり促進事業		
事業費	1,250 千円	担当部局課	農林水産部 林業振興課

1 目的

県産木材を活用した県産木工品プロダクトコンペを実施し、展示会の開催や作品集の作成を通して木の良さを広く県民に知ってもらうことで、木のある暮らしの普及促進を図る。

2 事業概要

県産木材を材料とする木工品は、木の良さのみならず、県内の森林資源の大切さを感じてもらおうという点で有効である一方、価格・デザイン等において未だ発展途上であり市場におけるシェアは極めて少ない現状にある。

このため、木工業者やデザイナー、大学生等を対象に、県産木材を活用した木工品プロダクトコンペを実施して、品質やデザイン性の向上について専門家からアドバイスをいただいた。

応募作品のうち優秀な作品については、作品集の作成や受賞作品の巡回展示を行うことにより県民に広くPRし、県産木材の普及と木のある暮らしづくりを推進した。

平成27年度実施状況（3月末現在）は次のとおり。

- ・ 県産木工品プロダクトコンペの実施を支援。（事業主体：山形県木材産業協同組合）
- ・ 76点の応募があり、審査会により山形県知事賞等を決定し、受賞作品を中心に巡回展示中。

県産木工品プロダクトコンペの実施状況



応募作品



審査状況



受賞作品(上位3賞)

受賞作品

- ・ 山形県知事賞：幼児用食器プレート(右下)
 - ・ 山形県木材産業協同組合理事長賞：木製竹馬(左下)
 - ・ 山形県木工業協同組合連合会理事長賞：パズル式コースター(左上)
- 上記のほか 審査員特別賞 7点

3 成果と課題（見込み）

成果：・ 県産木材の良さやぬくもりを県産木製品を通じて体感していただく機会を創出した。

・ 木工製品の品質・デザイン性の向上につながった。

課題：なし

項目	環境保全を重視した森林資源の循環利用の推進	NO	1-5
事業名	広葉樹林健全化促進事業		
事業費	5,642 千円	担当部局課	農林水産部 林業振興課

1 目的

- ① ナラ枯れ被害の拡大防止
- ② 広葉樹林の更新（若返り）
- ③ 森林資源の有効活用

2 事業概要

ナラ林を主体とする広葉樹林の小規模皆伐（おおむね5ha以下）を実施する森林所有者、森林組合、素材生産業者等に対し、伐採搬出経費や大量集積型おとり丸太の設置経費（合成集合フェロモンの誘引効果による面的防除）の一部を助成する。

3 平成27年度実績見込み

- ① 広葉樹の伐採搬出支援

5,642 m³（計画量：6,000 m³）

- ② 面的防除支援「大量集積型おとり丸太の設置」

0 箇所（計画：5 箇所）

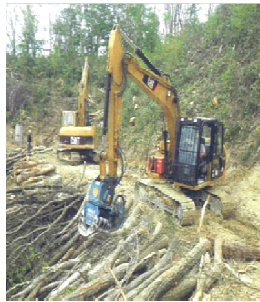
4 成果と課題

- ① 成果

ナラ枯れ被害の原因となる害虫の駆除と森林の若返りを促進し、併せて伐採木の利用による森林資源の有効活用を推進した。

- ② 課題・対応

今年度は、大量集積型おとり丸太を活用した面的防除を本事業で実施できなかった。そのため、森林所有者に大量集積型おとり丸太によるナラ枯れ被害軽減の有効性を広くPRし、積極的に設置していただけるよう取り組んでいきたい。



伐採作業と集材・搬出の状況



森林資源の有効活用

「大量集積型おとり丸太」実施状況

項目	環境保全を重視した森林資源の循環利用の推進	NO	1-6
事業名	ナラ枯れ被害対策検証事業		
事業費	300 千円	担当部局課	農林水産部 林業振興課

1 目的

- ・ 面的防除対策の実施
合成集合フェロモンを用いた大量捕殺手法を実施する。

2 事業概要

- ・ 面的防除対策の実施
合成集合フェロモン（誘引剤）を用いたカシノナガキクイムシ（以下「カシナガ」）の大量捕殺手法によるカシナガの誘引効果と被害軽減効果を検証を行なう。
- ・ 平成27年度実施状況（3月末現在）
合成集合フェロモン設置 6箇所（計画5箇所）

3 成果と課題

【成果】

- ・ おとり木トラップの効果としては、微害地においてトラップから半径約100m以内の被害量を1/10にする結果が得られた。
- ・ 大量集積型おとり丸太では、同一箇所にて6年設置した試験地において、大量集積型丸太20m³で、カシナガの誘引数は、激害の設置当初は 15,000~30,000万頭/m³、枯死木が周囲からなくなった3年目で15千頭/m³、5年目には3千頭/m³に推移した。

【課題】

合成集合フェロモンによるナラ枯れ被害の軽減効果の有効性を確認できた。県内でもナラ枯れ被害は終息傾向にあるが、ナラ枯れ被害は再発することが確認されており、今後は、カシナガの個体数の動態に着目し、合成集合フェロモンによるナラ枯れ被害の再発防止効果の検証の必要性がある。

合成集合フェロモンを用いた大量捕殺手法

【おとり木トラップ】



事前に殺菌剤を樹幹に注入



- ①誘引剤として幹にエタノールを設置し、カイロモンを発生（木にドリルで穿孔）させる
- ②合成集合フェロモンを設置しカシノナガキクイムシを誘引
- ③カシノナガキクイムシの誘引状況確認のため粘着バンドを設置

被害地2箇所
約1万頭/0.1haを誘殺

※伐採を前提とした林分では殺菌剤を注入しない、誘引伐採木も実施

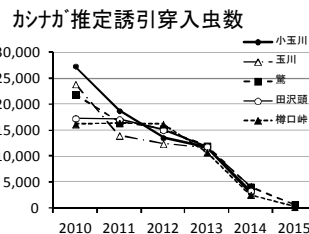
【おとり丸太トラップ】



丸太を20m³以上に大量集積



丸太に合成集合フェロモンを設置しカシノナガキクイムシを誘引



同じ箇所
6年連続設置
0にならない
★ 設置4~5年
で密度減少。0に
するには7年か?

激害時から同一箇所にて大量集積型おとり丸太を6年設置
4年目1万頭/m³、5年目3千頭/m³、6年目千頭/m³以下
★ カシナガの密度を減らすには4~5年設置でいいが6年目で0にならない